

高山城跡



高山城・参考記載

家紋 左三つ巴

別名: 妻高山城、古高山城

① 城郭構造	山城
② 天守構造	建造されず
③ 築城主	小早川茂平
④ 築城年	1206年 建永元年
⑤ 主な改修者	小早川氏代々
⑥ 遺構	石垣、土塁 堀切、搦手 他
⑦ 標高	190.2m
⑧ 城山の規模	* 頂上 東西: 450m 南北: 350m * 城域 約41万㎡ 全国・屈指の規模
⑨ 廃城年	1552年 天文21年

高山城は、沼田小早川4代当主・茂平が築いた城で、中世346年間、この地方の拠点であった。

また、中世という時代は鎌倉・南北朝・室町の戦国時代を通じ、国人領主が今までの荘園主や国の権力者や貴族に代わり各地に群雄割拠し、勢力拡大を図り、或いは天下統一を目指して戦っていた。

この時代、高山城においても幾度か合戦が行われ攻防は激戦であったと記されている。

戦に備えた城の構えは如何だったか興味津々である。裏面に縄張図を記載した。

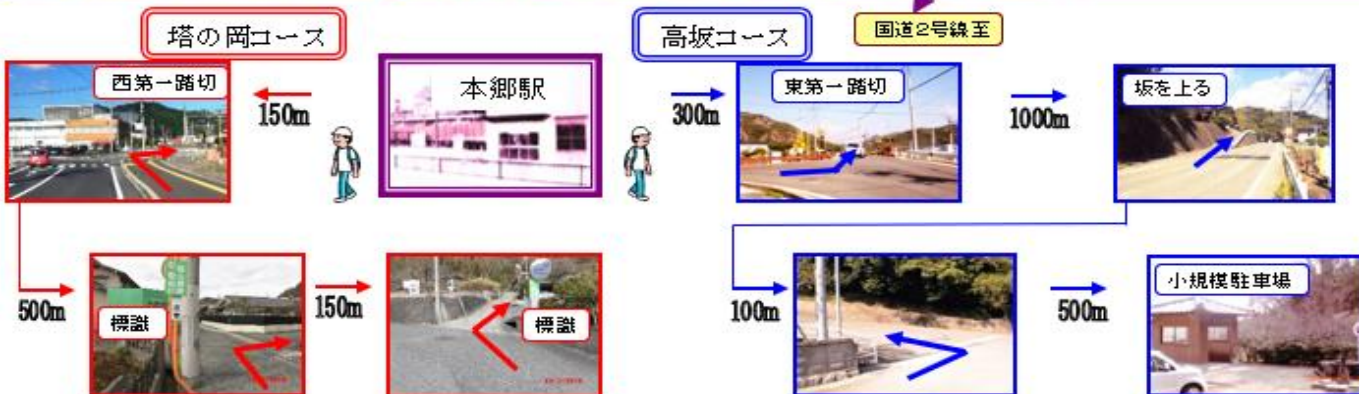
[参考文献一覧]

- ① 郷土史家 ; 山根 光博氏 研究文献・引用
- ② その他; インターネット掲載記事 他

三原市 本郷町観光協会
平成28年5月発行



ガイド案内連絡先
三原市本郷南5丁目26-11
Tel 0848-86-5717
9時~12時・平日



本丸



扇の丸: 石垣



イワオ丸: 絶好の撮影ポイント



高の丸: 最高峰190.2m



高山城は、標高190.2mの山頂に築かれ、谷を挟んだ南北に曲輪群が配置されているが、曲輪の構成から考えると北側が中心と推察される。北側は、中心に本丸・二の丸・北の丸・扇丸などがある。南側は、南の丸・イワオ丸(本丸?)・権現丸・西の丸などの曲輪群がある。また、南東下に伸びる尾根筋に堀切がある。

城内には7箇所の井戸跡が確認される。高山城は南・北同時に築城したのではなく、南嶺を先に構築し、その後、順次、歴代城主が関わって完成させたと推測される。築城を急いだのか、南嶺は削平しただけの郭群から成る。北嶺の郭群は手間を掛けて石垣、石積を多様した造りになっている。

【曲輪(郭)一考】
 曲輪は、城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称である。郭(くるわ)とも書く。曲輪とは、軍事的・政治的な意図を持って、削平・盛土された平面空間と定義される。15世紀後半に曲輪を連ねる構造が発達し始めたと言われる(連郭式縄張)。その後、戦国時代以降の城郭では、複数の曲輪を意図的に配置し、一郭を主とし二郭以降を従とする構成が一般的となった。曲輪を用途別に、本丸・二の丸・三の丸等々統一的に呼称されるようになったのは、江戸時代の軍学者によるもので、戦国時代には城各々独自の呼称が見られる。

【高山城の一例】
 戸石丸 → 二の丸的役割を担い、重臣・戸石氏の居館だったと推測される。

【曲輪(郭)の用途】

- 本丸
 城の中核部であり、本丸御殿のような居住域兼政務域を持ち、戦時には最終防衛線となる。
- 二の丸
 本丸の次に繋がる主要な曲輪の名称である。本丸と同様に殿舎を建てる場合もあり、城によっては城の中心的機能を持っていることもある。
- 三の丸
 二の丸の次に繋がる主要な曲輪で、家臣たちの屋敷が置かれる場合もある。

- その他、おもに本丸から見た方角から、東の丸、西の丸、南の丸、北の丸といわれる。
- その他、帯曲輪
 主要な曲輪の外周に配置される細長い小曲輪。一段低く掘り下げてつくる。二重に築くこともある。

高山城 平成21年1月12日作成 山根光博